

第4回 JCHO千葉病院地域協議会 議事録

出席者（敬称略）：関係者 矢島、能勢、富田、長谷川、和田、岩永、小川、積田  
病 院 室谷、堀、中村、市原、江連、河野  
（事務局）大土、溝井、菱沼、高山、勝亦、小柳  
欠席者 : 関係者 高岡

1. 院長挨拶 室谷院長

平成26年10月より始めた地域協議会も第4回目を開催させていただくことができました。  
運営実績は、詳細は省きますが、上半期は赤字でしたが年度末には黒字計上となりました。

3. 当院への要望・ご意見等について意見交換 議長、室谷院長

（当院）当院は、地域完結型を目指し、患者さんの身近な地域、県・市・クリニックとタッグを組んでより貢献出来るよう努力していきたいと思っています。  
千葉市の人口は95万人となっていますが、認知症の方はどれくらい把握されていますか？  
また、困っていることなどありましたらご意見をお願いします。

（委員）どのあたりにいるのか把握できていない。レセプトでも引っ張ってこれない。  
3万から3万5000人くらいはいるのではないかとおもっているが、分布は把握していない。  
来年度から、在宅で療養されている方の把握をしていく予定。  
あんしんケアセンターやクリニックのドクターなどに困る点など問題点を尋ねたら、独居の高齢者で認知症の方の入院先がみつからないということだった。

（委員）当院のグループホームで18人の入居者がいます。  
骨折に関して、大腿骨骨折など手術してもらえる病院があればと思う。  
施設によっては、家族が音信不通の方もいるので市とも相談しながらやっていく。

（委員）若葉区で開業。ここ2~3年前から入れないということはない。  
家族が諦めて在宅で看とっている。病院に行かなくて良い、延命はしないという家族が増えてきた。  
バックアップ病院があったらとおもう。

(委員) 一人の方でも緊急連絡先をご近所の方などでバックアップしている。医療との連携もとれているのであまり困っていない。

(委員) いまは、あまり困っていない。認知の方でも受け入れてもらえるところがある。若年のがんの末期の方の方が行き場がない。精度の狭間で困ることが多い。

(委員) 千葉大学病院、千葉県がんセンター、千葉市立青葉病院、千葉メディカルセンター。それぞれの役割がある。

地域病床、28年度の配分はどうするのですか。

(当院) 県と市の役割分担はどうなっているのか。

(委員) 医師会も、県と市がある。JCHO 千葉病院がどうかかわっていただけるか。

高度急性期をレセプトでみて、市内の完結率、入院が千葉市内どのくらい分布しているのか。

(当院) 当院は、腎不全に特化している。合併患者が多いので、千葉県全域となっている。

地域とはなにか？

(委員) 腎は分けて考えてはいかがでしょうか。介護や認知症。住み慣れた町での通える病院。住んでいる地域を中心にあんしんケア、訪問しているクリニックと JCHO 千葉病院がかかわれることを教えて欲しい。

(委員) どの病院にどのようなことをお願いするのか決まっていない。多職種連携会議、地域医療ネットワークを立ち上げた。得意な事などをアプローチしてもらえれば。この疾患はあの先生にというような関係を築きたい。

(委員) これをお願いしますということではなく、連携会議などで話していければと思う。

急性期は十分足りている。

(当院) 地域包括 昨年は 50%→85%に、地域の受入があるのでアップした。

(当院) 地域包括病棟 40 床。平成 26 年は 35%~40%。平成 27 年は、60%超えから 80%超えている。

主治医をどうするのか戸惑いがあったが、まず相談するのが、内科河野、外科堀となってからはスムーズになった。

(当院) 困っていることはない。よりスピーディーに受け入れしていきたい。

(当院) 認知の対応に慣れてきたのもあり、チーム医療（認知症チーム）をつくったらどうかと思う。

(当院) いままでは、それぞれ専門しか診ていなかったが、大分変わってきている。

(当院) 認知症の受入は、突然不穏強くなったりするので、専門のドクターにコンサルトできるルートを確認してシステムを作ってはどうか。気軽に受診できる病院があればと思う。  
美浜の千葉県精神医療センターは敷居が高い。

(委員) 千葉東病院の神経内科で診てもらっている。

(当院) 患者が何を求めているのか、温度差がある。今後、もっと受入ができるようにしていきたい。

次回は9月くらいに開催予定